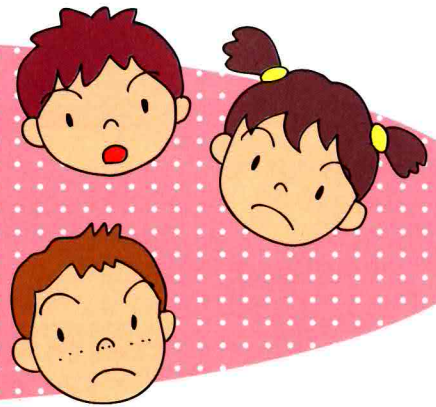


私のほうを 見てちょうだい

子どもたちの心のさけび



例 9 私のほうを見てちょうだい

小学校4年のT子は、幼稚園を卒園する頃から登園を拒否するようになり、小学校も入学式を除いて登校できませんでした。母親から乳幼児期の話を聞くと、とても過敏な子で、「育てにくい子」だったこと、姉の方に親の関心が向き、勉強のじゃまをさせないようT子には厳しく我慢させ、静かに過ごさせることを強いてしまったということでした。

ところが、休みだしてからのT子の様子は、まるで母親を困らせるようなことの連続でした。「外に聞こえるように泣き叫ぶ」「かんしゃくを起こす」「暴言を言う」「物を壊す」など傍若無人の振る舞いで、母親に自分の要求を通そうとしました。

例 10 テレビに子育てさせないで

小学校1年のU男は、自分が思うとおりにならないと、友達にすぐ手足が出てしまい、被害者が続出しました。授業参観でも落ち着かず、立ち歩きがやみません。学級の保護者たちは困惑の視線を送っています。

それからというもの、U男の母親は何とか落ち着いた生活ができるように、きつく叱ったり、叩いて注意したりしました。眉間にしわを寄せて、U男の行動を監視するように見ることが多くなりました。周囲の視線も母親の子育てのしかたに対する非難と圧力になっていました。

母親は、担任と話し合いをもったとき、U男がノートにアニメの戦闘キャラクターの絵ばかり描いていることを知らされました。親はハッとしました。忙しさにまぎれてテレビやDVDで子育てしてきたことを。

例 11 一緒に遊んでちょうだい

小学校3年のC子は友達とうまくつき合えないタイプの子でした。勉強面は心配ないのですが、遊びの時も、友達の言うことは受け入れず、自分のしたいことを強く主張してしまいます。やがて、一人でいることが多くなり、学校を休み始めました。学校の先生が迎えに行かないと登校できない状況になりました。

家庭での様子を聞いていくうちに、C子の父親は多忙を理由に幼少期に一緒に遊んだ記憶がないこと、母親も地区の会合や行事にほとんど参加せず、親しい友達が少ないということが分かりました。

例 12 大人のはざままで・・・

小学校3年のD男と6年のE男は兄弟で、そろって不登校となっています。家族は、両親、祖父母とも健在で、2人のことをとても心配しています。2人は、支援員が迎えに行き登校を促し、別室で勉強する状態です。ある日、母親が支援員に心の内を話しました。

「祖父母は、子どもたちのことをとてもかわいがってくれ、それは有り難い。でも、子どもの育て方については、私たち夫婦と考え方が違うことがよくある。私は、まずは登校して勉強してほしいが、祖父母は、いやなことがあれば無理して行かなくてもいいと考えているみたいで、考え方が合わないんです。」

例 13 お母さん、しっかりして

小学校1年のV男には善悪の判断がつかない行動が見られます。石を投げたり、他人の家の中に勝手に入ったり、分別がありません。休みの日には、近くの公園や商店街をふらふら歩き回る姿が見られます。

学校でも朝から落ち着きがなく、まわりの友達にちょっかいを出してはいさかいになることが多く、忘れ物や宿題をしてこないことも多く見られます。担任が家庭に連絡をすると、母親の無関心な返事が返ってきました。子どもに聞いてみると、「お母さんは、登校の時に寝ていることがあるよ」ということでした。



笑顔ある
生活のために!

